

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第4号）」について送付しますので、業務の参考にしてください。

令和7年産麦作情報（第4号）

1. 気象の概要（2月3半旬～6半旬）

- ◆平均気温…平年よりも低く推移した（平年比-2.2℃）。
- ◆降水量 …平年よりかなり少なく推移した（平年比33%）。
- ◆日照時間…平年と比べ長い（平年比129%）

2. 管内麦類の生育状況

▼佐城管内の調査結果（2月28日調査）

場所	品種名	播種日	苗立ち数 (本/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)
鍋島	シロガネコムギ	11/24	124	17.9	621	5.9	44.6
北川副	さちかおり	11/24	214	18.1	1228	7.3	43.6
川副	はるか二条	12/10	145	13.8	408	4.4	46.0

【概況】

- 11月中旬～下旬播種の小麦は、現在第5葉～第8葉を迎えているが、低温・乾燥の影響で草丈が低く、莖数は「さちかおり」など一部の品種を除き少ない傾向となっている。
- 11月下旬～12月上旬に播種された大麦は、現在、4葉期～5葉期を迎えており、分けつ期の抽出期であるが、播種が遅れた圃場では、生育が緩慢である。
- カモによる食害が各地で見られ、特に大きな河川やクリーク付近の圃場で被害が大きい。

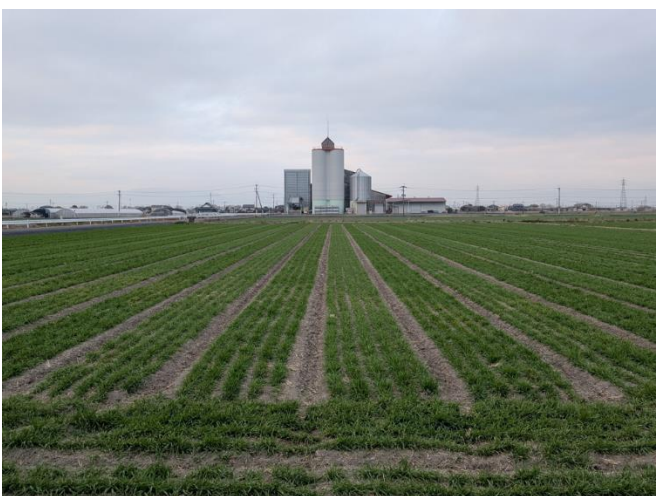


写真1. さちかおり情報田の生育状況（北川副）



写真2. さちかおり情報田の生育状況（拡大）

参考 農試作況データ (2月28日調査)

◎農試作況試験における麦類の生育 (2月28日調査)

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況 (平年・平均と比較して)
シロガネコムギ	11/20	本年	17.5	979	7.0	45.6	[気象] 2/11~2/27まで ◆平均気温…平年より低い (平年差-2.1℃) ◆日照時間…長い(平年比144%) ◆降水量…少ない(平年比33%) [生育] ◆草丈 全品種・全作期において、過去10年間で最も低いレベル。 ◆茎数 11/20播「シロガネコムギ」は多く、その他は少ない。 ◆葉齢 11/20播「シロガネコムギ」はやや少なく、その他は少ない(-1.2~2.1L)。 ◆葉色(SPAD値) 11/20播「シロガネコムギ」、両作期の「サチホゴールデン」は平年並み、12/10播「シロガネコムギ」はやや淡い、「はるか二条」は濃い。 ◆生育ステージ(次頁参照)
		平年	37.7	757	7.3	46.2	
	平年比(差)	46	129	-0.3	-0.6		
	12/10	本年	9.4	557	5.0	46.5	
平年		26.6	685	6.2	48.4		
平年比(差)	35	81	-1.2	-1.9			
サチホゴールデン	12/2	本年	12.1	878	5.1	44.9	
		4ヵ年平均	32.1	1199	7.2	44.6	
	前年比(差)	38	73	-2.1	+0.3		
	12/10	本年	11.1	802	5.0	44.9	
平年		22.9	929	6.3	45.7		
平年比(差)	48	86	-1.3	-0.8			
はるか二条	12/2	本年	12.3	741	5.2	49.8	
		4ヵ年平均	30.0	1038	7.2	48.1	
	前年比(差)	41	71	-2.0	+1.7		
	12/10	本年	12.2	778	4.6	50.2	
7ヵ年平均		25.6	902	6.4	48.1		
平年比(差)	48	86	-1.8	+2.1			

◎本年の生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成始期 (月/日)	節間伸長開始期 (月/日)	茎立期 (月/日)	出穂期 (月/日)
シロガネコムギ	11/20	本年	2/3	未	未	未
		前年	1/26	2/11	2/13	3/24
		平年	2/2	2/19	2/19	3/30
		平年差	+1	—	—	—
	12/10	本年	未	未	未	未
		前年	2/14	2/20	2/24	4/1
平年	2/21	3/1	3/4	4/5		
平年差	—	—	—	—		
サチホゴールデン	12/2	本年	2/13	未	未	未
		前年	1/29	2/16	2/20	3/28
		平年	2/6	2/23	3/2	3/29
		平年差	+7	—	—	—
	12/10	本年	2/18	未	未	未
		前年	2/2	2/20	2/20	3/31
平年	2/12	3/3	3/5	4/3		
平年差	+6	—	—	—		
はるか二条	12/2	本年	2/13	未	未	未
		前年	1/29	2/16	2/20	3/29
		平年	2/6	2/22	3/4	3/28
		平年差	+7	—	—	—
	12/10	本年	2/18	未	未	未
		前年	2/1	2/20	2/20	3/31
平年	2/11	2/27	2/28	4/1		
平年差	+7	—	—	—		

注1) 平年値の算出方法については前頁を参照。

注2) 1個体当たり主茎及び生育旺盛な分げつ2本の計3本の幼穂を計測。節間長は根の付け根から幼穂の根本までの長さを計測。幼穂形成始期は幼穂長1mmが30%以上に達した時期を記載。節間伸長開始期は節間長5mmが80%以上に達した時期を記載。

3. 今後の管理

1) 穂肥

- ・ 茎立ち期（草丈 25 cm 程度）までに施用する。
- ・ 肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うとより効果的である。土が湿り、土塊が大きい場合は麦が埋まる可能性もあるため、**土壌が乾燥した状態**で行なう。
- ・ 散粒機や動散等で全面散布する場合は、施肥量を 1～2 割程度増やす。
※ 茎立ち期（図 1 参照）を迎えた圃場では動力散粒機やブロードキャスター等で散布する。
- ・ 降水量の多少により肥料成分の流亡量は変動する。本年麦作期間において、降水量は平年より少なく、流亡は少ないと考えられるため、穂肥の施用量は基準量とする。

○ビール大麦 「サチホゴールデン」

【タンパク質含有率値の目標：10～11%】

2月の降水量（平年値：76mm）と3月上旬の葉色により、穂肥量を決定する。
次表を参考に施肥する。時期は、3月上旬までとする。

(窒素成分 kg/10a)

		2月の降水量 (mm)		
		40	80	120
3月上旬の葉色 (SPAD)	38	1.8	—	—
	40	1.2	—	—
	42	0.6	4.2	—
	44	—	3.6	—
	46	—	3.0	—
	48	—	2.4	—
	50	—	1.8	—
	52	—	1.2	—
	54	—	0.6	4.1
	56	—	—	3.5

今年 2 月の
降水量は
45.0mm
で葉色は
45 前後



(参考) サチホゴールデンの穂肥診断基準 (農試)

図 1. 茎立ちの模式図

2) 麦踏み (3葉期以降)

- ・ 土壌水分が高い時に行うと土が締まり、湿害を助長し排水が悪くなるため実施しない。
- ・ 麦踏みの最終時期は節間伸長開始期～茎立ち期（図 1 参照：節間長 2 cm・草丈 25 cm 程度）前までである。
- ・ 茎立ち期を迎えた圃場では、茎折れの発生による穂数の減少や株元のなびきにより倒伏に対する抵抗力が弱まるため実施しない。

【麦踏みの効果】

- ①耐寒性向上 ②根量増加 ③短稈多分げつ型への誘導 ④早立ち防止で凍霜害回避

○穂揃期追肥 (実肥)

タンパク含有率向上のため、穂揃期追肥を施用する。特にパン用小麦は必ず施用する。

葉色	用途	品 種	窒素量 (kg/10a)	実肥の施用量 (kg/10a)	
				硫安の場合	尿素の場合
葉色に関わらず必ず施用	パン	はる風ふわり	5	25	12.5
		さちかおり	7	30	15
	めん	チクゴイズミ	3	15	7.5
葉色が淡い場合に施用 注1)	ビール	シロガネコムギ	2	10	5
		サチホゴールデン	2	10	5

注 1) 出穂期前頃の SPAD 値がシロガネコムギで 40 以下、ビール大麦で 39 以下の場合。

注 2) 穂揃期追肥は、出穂期の 3 日後が効果的。それ以降に施用する場合は増量が必要。

＜液肥利用の留意点＞

- 肥料を溶かす際は、直接タンクに入れると溶けない場合があるため、事前にお湯等で溶かし、タンクに入れると濃度ムラがなくなる。
※硫酸による液肥施用は難しいため、液肥利用の際は尿素を用いる。
- 乗用管理機での施用の場合、赤かび病防除との同時施用も可能。ただし施用時期が遅くなるため、3～4割追加した量が必要になる。
- 液肥施用後、芒や葉先などに肥料焼けがみられるが、収量や品質への影響は小さい。

3) 排水対策

- 排水対策は、分けつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。
- 本年は、現在まで積算降水量は少ないものの、近年は局地的な降雨が増えていることから、今後の降雨に備え、土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。
- トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。

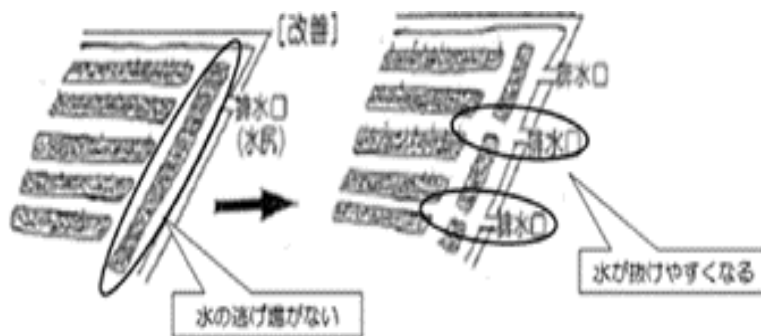


写真3.うね溝と排水口の整備例

4) 病害虫防除

(1) オオムギ網斑病

- 今後、気温の上昇に伴い病斑の進展が予想されるので、各圃場の発生状況に注意が必要である。
- 本病が多発すると登熟に影響し減収・品質低下の原因となる為、上位葉で病斑の進展が確認される場合は、出穂期～穂揃期の防除適期に防除を実施する。
- ※ チルト乳剤は1回しか使用できないので注意する。



写真4.オオムギ網斑病

網斑病の防除適期

麦種	全茎数の 40～50%が出穂した日	出穂期	穂揃期	全茎数の 80%が出穂した日 (出穂期から概ね 2～3 日後)					
		0	+5日	+10日	+15日	+20日	+25日		
大麦	←—————→								

注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。

注2) 矢印は防除適期を示し、薬剤については次表を参照とする。

農薬名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量 (/10a)	使用時期	総使用回数	使用方法
チルト乳剤 25	網斑病	1000倍	60～150L	収穫 21 日前まで	1回	散布

(2) コムギ黄斑病

- ・降雨などの多湿条件と 10℃以上の気温条件が、一次伝染および二次伝染を助長する。
- ・前作が大豆の圃場では、水稻の圃場より顕著に発生が多くなる傾向にある。また、発病には品種間差異があり、シロガネコムギは耐病性があるが、チクゴイズミ、ミナミノカオリ、はる風ふわり、さちかおりで発病が確認される。
- ・本病が上位葉まで進展すると、収量・品質に影響を及ぼす恐れがあるため、出穂期までに薬剤防除を徹底する。
(登録薬剤：チルト乳剤、ワークアップフロアブルなど)



写真5.コムギ黄斑病

(3) 赤かび病

- ・感染適期は開花期～乳熟期で、高温多雨(20～27℃)で経過すると激発する。
- ・防除は、下表を参考に必ず圃場の生育状況を確認したうえで、適期防除に努める。

麦種	予想される赤かび病の発生量	全茎数の40～50%が出穂した日	出穂期	穂揃期	全茎数の80%が出穂した日(出穂期から概ね2～3日後)						
			0	+5日	+10日	+15日	+20日	+25日	+30日		
小麦	少～並発生										
	並～多発生										
大麦	少～並発生										
	並～多発生										

注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。

注2) 小麦の開花期とは40～50%の穂が開花した日。

注3) 大麦の葯殻抽出期とは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。

注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法(収穫前日数)に特に注意する。

① 小麦の防除時期

- ・1回目の防除時期：開花最盛期(出穂期の約7～10日後)
- ・多発生が予測される場合は2回実施(1回目の10～20日後)

「パン用小麦」は、必ず2回防除を徹底する。

② 大麦の防除時期

- ・1回目の防除時期：葯殻抽出始め(出穂期の約2週間後)
- ・多発生が予測される場合は2回実施(1回目の7日後)

「はるか二条」は、必ず2回防除を徹底する。

※大麦でトップジンM水和剤を使用する場合は、収穫30日前までの使用となっているので注意する。



写真6.小麦開花期

大麦の芒(のげ)の下から黒い葯殻が出る時期に防除

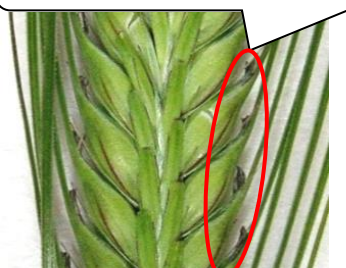


写真7.大麦葯殻抽出期

5) 雑草対策

- 一部の圃場で1年生広葉雑草を中心に雑草（ヤエムグラ、キンポウゲ類、アメリカフウロ、ミチヤナギなど）の発生が目立っている。

現在使用できる生育期除草剤は、草種や使用時期によって効果に差があるため、優先している雑草の種類に応じ、処理時期を逸しないよう早めに対処する。（下表参照）

【注意事項】

麦踏み：麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

土入れ：除草剤散布直後に行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

○生育期除草剤使用例

農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF水和剤	イネ科雑草 スズメタネウ カノコグサ 1年生広葉雑草 ミチヤナギ タデ類 キツネノボタン ナズナ ハコベ	5 ～ 10 g	100L	は種後～節間伸長前 (スズメタネウ5葉期まで) (カノコグサ1～3葉期まで) ※小麦のみ は種後～穂ばらみ期 まで 但し収穫45日前まで	1回 以内	・カノコグサには 10g/10aとし、 土壌処理剤との体系 処理で使用 ・周辺作物(特にタ マネギ)への飛散 には十分留意する ・スズメタネウ、ヤ ムグラ、カスミアウ への効果は劣る
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草に は効果がない	100 ～ 200 ml	70 ～ 100 L	生育期 (雑草3～6葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前 まで	1回 以内	・ミチヤナギ、カス ミアウ、ミノスマ等 への効果は劣る
エコパートフロアブル※1	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草に は効果がない	50 ～ 100 ml	100L	節間伸長開始期ま で (広葉2～4葉期) (ヤエムグラ2～6 節期) ただし収穫45日前 まで	2回 以内	・薬害が出やすい ため注意する ・ヤエムグラ優先圃 場で使用

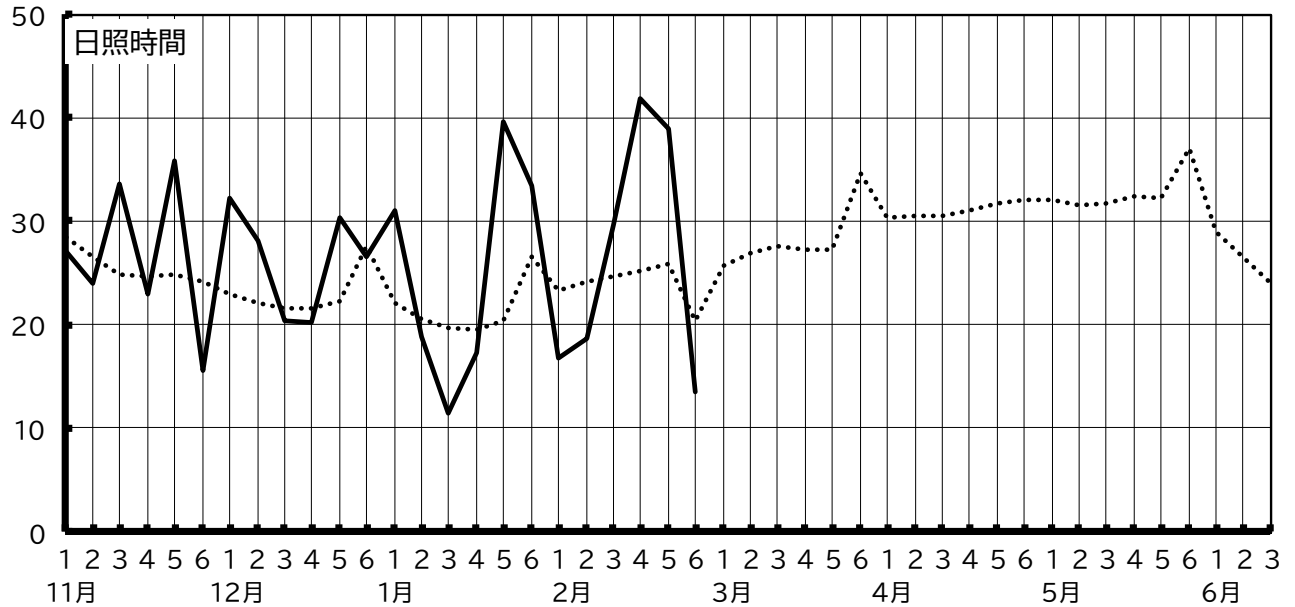
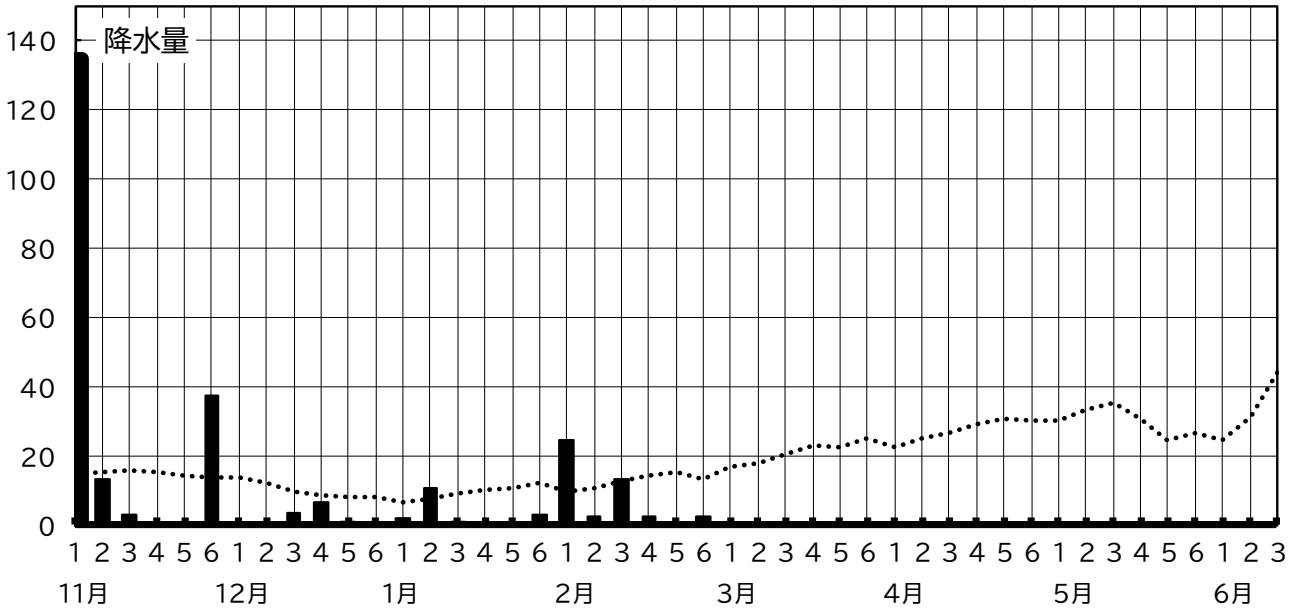
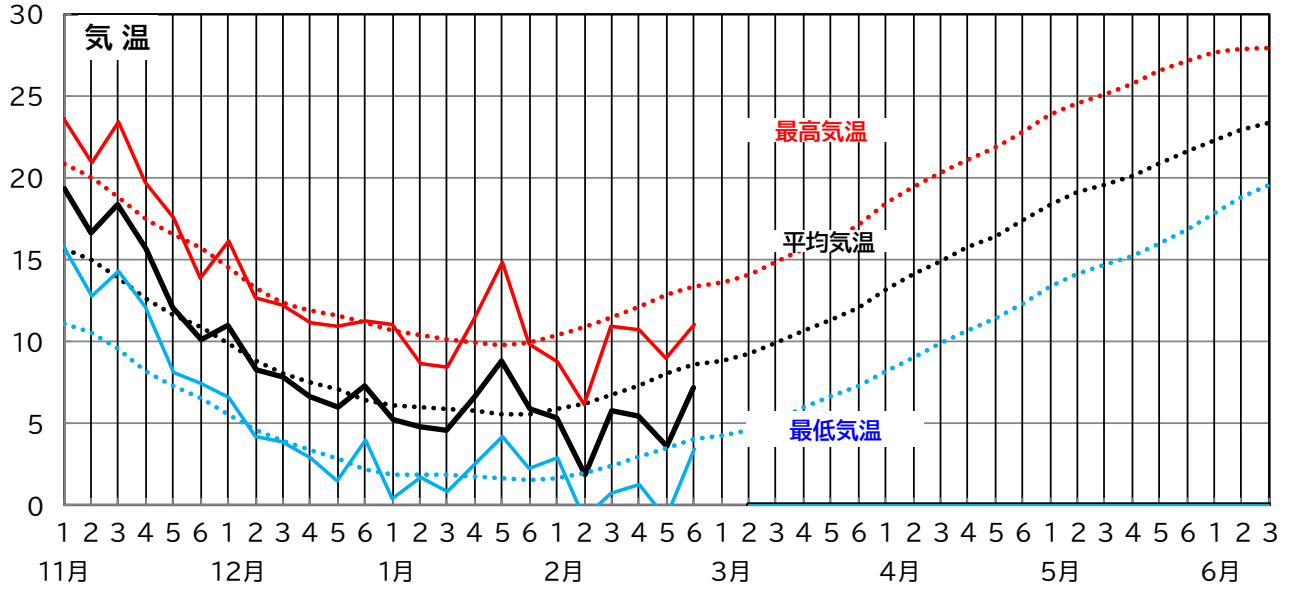
※1 以下の場合、薬害が生じることがあるので留意する。

- ヤエムグラに効果は高いが適用時期を過ぎての使用は著しい薬害が発生するため、節間伸長開始期（節間長5mm）となっている圃場では散布しないよう留意する。
- 重複散布は避け、麦が生育不良の場合は使用を避ける。
- 効果、薬害に問題がないことが確認されていない薬剤との同時施用や7日以内の近接散布は避ける。

令和7年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値(佐賀)

佐城農業振興センター



※グラフ中の点線は平年値